

「三番瀬干潟観察会」 調査結果報告



実施概要

2017 年 5 月 28 日（日） 10:00-15:00 / 参加者 27 名

三番瀬干潟観察会では、自然観察の中で 2 つの調査を行いました。1 つはどんな生物種がいて、それぞれの種は多いのか少ないかを判定する干潟生物多様性調査です。もう 1 つは、干潟の代表的生物であるアサリの密度とサイズを調査し、アサリの人口（個体群）を調べるあさりワクワク調査です。

干潟生物多様性調査

この調査は、三番瀬干潟に生息するベントス（底生生物）の種類とそれぞれの種類がたくさんいるか少ないかを、観察参加者の方にいろいろな種類のベントスを採集して頂くことで評価する調査法です。

三番瀬海浜公園東浜で午前中約 1 時間をかけてできるだけ多くの干潟生物種類の採集を目指して頂きました。参加者を、家族や友人、所属組織別に 19 組の観察チームに分けました。目でみて干潟面で見つけた生物、さらには小型スコップでの干潟掘り起こして生物の採集を行いました。

あさりワクワク調査

アサリは子供（幼生）をプランクトンとして海に旅立たせます。幼生は2週間ほどのプランクトン生活の間に成長し、流れついた干潟に着底し、私たちの目にするアサリとしてベントス生活を始めます。ですから東京湾の干潟で生まれた子供はどこかの干潟でアサリになるかは、その時の流れ次第です。また、干潟が少なくなった現状では、たどり着けない子供もたくさんいます。そのため、いろいろな干潟でのアサリの稚貝の数は年によって大きく変わります。アサリの稚貝を数えることで、いつどこでどのようにしてアサリが増えるのかを考えます。

干潟のいろいろな場所で参加14グループごとに25×25cm²、深さ約10cmの底質を移植ゴテで採集し、目合約2mmのふるいで砂を落とし、ふるいに残ったアサリを採集しました。採集されたアサリ全部をノギスで殻の長さ（一番広い幅）を1mmきざみで計りました。

下の図は採集されたアサリの25×25cm²の中の平均サイズ分布です。10mm以下の稚貝や、20mm以上の成貝が多く見られました。1m²あたりに換算すると、稚貝の密度は350個体、成貝の密度は87個体になりました。稚貝は昨年生まれたものと推定され、このまま来年まで生き残れば、来年に成貝に成長すると予想されます。また、成貝もけっこう多くいました。稚貝と成貝がこのまま生き残ってくれば来年も大きなアサリがたくさん採れるでしょう。

